

## 家庭発展 特別授業「バングラデシュでの支援活動」

9月28日(木)、特定非営利活動法人「国際エンゼル協会」の加藤圭二さん、桧垣保子さん、角谷康子さんにお越しいただき、前半は、バングラデシュの生活文化の紹介と子ども達への奨学金や学校建設、農村女性への識字教室などの現地への支援、その活動を支えるためのチャリティーバザーやコンサートなど日本国内での活動について加藤さんに講演していただきました。

授業後の感想では「加藤さんの『人に無償で物を与え続けたら努力しなくなる。』『道具や知識を与え、努力することを学ばせることが大事』という言葉に感動した。」「教育を受けられることは当たり前ではないと改めて感じた。」など、長期的展望にたった支援の重要性や教育の意義について述べた生徒が多数いました。

Q) 何に使うものでしょう?  
ぶんぶん振り回していますが・・・?

テロによる犠牲も経て、日本の技術提供による電車が開通しました。

A) 360°みんなが涼しいうちわ

6mもあるサリー。桧垣さんと角谷さんが着用されているのは日常着のサロアカミスです。

後半は民族衣装(サリーとパンジャビ)の着付け実習でした。代表生徒をモデルにした桧垣さんと角谷さんによるサリーの着付け師範の後、好きな色のサリーを選び、ペアになって自分たちで美しいシルクのサリーを着付け、記念写真撮影を行いました。

今年度は2年生の「総合的な探究の時間」においてエンゼル協会主催の10月18日(水)のチャリティーバザーに向けた協力も行っており、校内に物品収集のための箱なども設置されているため、3年生である本講座受講生徒たちも活動をより身近に感じていたのではないのでしょうか。